

# 鹿児島キャリアデザイン専門学校 令和5年度 学校関係者評価

## 1 教育理念

深い人間愛の精神を基調として、人間尊重の理念に基づいて人格の形成を目指し、豊かな人間性と教養を備え、常に進歩し多様化するさまざまな分野のニーズに応えられる有能な人材を育成する。

## 2 教育目標

本校は、日々高度化する技術革新に対応できる知識と技術を備えた工業分野での人材の育成、時代のニーズに応えられる実践的で有能なクリエイターなど文化・教養分野での人材の育成、商業実務・医療秘書・医療事務に的確に対応できる商業実務分野での人材の育成、保育・幼児教育において社会の多様化したニーズに的確に対応できる教育・社会福祉分野での人材の育成、及びビューティ業界やブライダル業界で活躍できる優れた技能や有能な知識を備えた衛生分野での人材の育成、ならびに豊かな人間性と創造性を有する国際性豊かで実践的な人材の育成を行うことを目的とする。

## 3 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 「1.教育理念・目標」に関し、学校関係者評価委員より、「学生がより教育理念・目標を理解しやすくするために行動指針を添えてはどうか」とのご意見をいただいた。  
目指す職業が異なっても、全学生が社会人としてふさわしい行動ができるよう、ディプロマポリシー等に基づいた行動指針の策定に向けて、検討を進めていく。
- (2) 「5.学生支援」に関し、卒業生への支援体制について改善の余地があるため、まずは卒業後にアクセスしやすくなるよう、ホームページの卒業生向けの内容を充実させる。  
そのうえで、Uターンや再就職等の更なる支援体制強化にも取り組んでいく。
- (3) 「9.法令等の遵守」に関し、個人情報保護、肖像権、法令順守等について様々なご意見をいただいた。  
学校で取り扱う個人情報は幅広いため、現状の取り組みを確認するとともに、職員一人ひとりがより高い意識を持って個人情報保護や法令順守を行えるよう、研修その他各種注意喚起を行っていく。

## 4 評価項目の達成および取組状況

### (1) 教育理念・目標

	評価項目	評価
1	学校の理念・目的は定められているか	3.7
2	社会のニーズ等を踏まえた学生の将来構想を抱いているか	3.3
3	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3.2
4	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.4
現状と課題	学科ごとにカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを教室掲示し、アドミッション・ポリシーをオープンキャンパスで展開することを徹底した。完全周知までは至らなかったため、さらなる周知方法を改善していく必要がある。 また、3つのポリシーを日々の生活に落とし込むうえで、わかりやすさにおいて見直しが必要となる部分も発見できた。	
改善策	令和6年度は総合型選抜試験を導入することから、入学希望者に向けてアドミッションポリシーをより明確に示す必要がある。社会や業界の研究をより深め、その道を目指すために必要なスキルを明確化し、適宜見直しを図る。	

関係者意見	学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施することで改善点も見えてくるかと思っておりますので、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの教室掲示やアドミッションポリシーをオープンキャンパスで展開することを徹底できたことは評価したい。</li> <li>・これまで学校改革の手段として3つのポリシーを軸として取組まれ、職場の環境をはじめ職員間、学生や保護者及び地域への学校理解啓発等に努力されて、開かれた学園、地域に根差した学校運営等、初期の目的十分達成したと思われる。 この取り組みを基礎・ベースとして、次はどんな展開をするか、どこへ生かすか等大きな関心を持っておりましたが、「総合型選抜試験の導入」の情報に触れ、なるほどと感同じます。まさに時代に一石を投じる大きな取り組みに繋がっており、感服しました。年々加速度的に進む少子化にあって、画期的取り組みと思えます。</li> <li>・教室での掲示などに加え、SNSでの刷り込み、また授業の中に理念・目標を持つことの大切さについて時間をすることも大切だと思えます。</li> <li>・アドミッションポリシーを入学前に積極的に希望者へ周知を図る取り組みは、大変良い取り組みであると思われる。一方同時に求められることとして、アドミッションポリシーの基である学校理念等の学生への周知も重要であると思われる。引き続き積極的に取り組まれることに期待したい。</li> </ul>	3.4

(2) 学校運営

	評価項目	評価
1	学園の運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.5
2	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.6
3	人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.5
4	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.6
5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.2
現状と課題	概ね良好であるが、まだ効率化を図る余地がある。	
改善策	業務の効率化・スリム化については問題点を吸い上げ改善活動を継続する。	
関係者意見	学校関係者評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化について、どのような形で問題点などを吸い上げているのかをお伺いしたい。 ⇒9月に管理職による教職員全員との個人面談を実施する際、ヒアリングを行っている。 また、学校自己評価実施の際、評価が低い項目に関しては評価者にその理由についてヒアリングを実施している。</li> <li>・コロナ対応に振り回された時代から、今度は5類移行になったからと、過去を検証する間もなく真逆の対応を迫られ、教育現場は毎日多忙な業務に追われた1年ではなかったかと気の毒に思う。そのような現状の中にあって、その時々状況に鑑みて対応を工夫され、運営の柔軟性を示された事は高く評価したい。</li> <li>・コロナ禍で苦勞されて取り組んだものに、逆に平常に導入できるものはないか。今後の教育に使えるものはないか必ず検証する必要があると思われる。 ⇒コロナ禍を経て、現在5学科の学生がノートPCを購入している。 そのため、現在では大雨でもオンライン授業を実施できるようになり、休校にする頻度が減少した。</li> <li>・職員の方々の満足度が、学校運営や教育の質にも繋がると思っておりますので、常にカイゼンできる環境が必要だと思えます。</li> <li>・運営の安定、組織形成の明確化、規程整備等がしっかりなされていると見受けられる。教職員の働きやすい環境が、学生への還元につながっているのではないかと。 ICT等を活用し業務の効率化に積極的に取り組みことで、より一層現場教育に力を注げられるのではないだろうか。引き続き積極的に取り組んでいただきたい。</li> </ul>	3.6	

## (3) 教育活動

	評価項目	評価
1	業界のニーズに沿った教育課程の編成を行っているか	3.5
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.5
3	学科等のシラバスは体系的に編成されているか	3.6
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.3
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.5
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.7
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.5
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.8
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.5
11	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.3
12	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.3
現状と課題	概ね良好であるが、教職員としてのスキル向上のための機会（研修への参加・研修の実施）が不十分である。	
改善策	教育課程編成委員会等を活用してカリキュラムの改善を行い教育の質の向上を図るとともに、学内においてワーキンググループを立ち上げ、教員意識や指導スキルの向上策を検討していく。	
	関係者意見	学校関係者評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修計画に対しての実施率（研修参加率）はどのようになっているでしょうか。 ⇒ 研修に関しては、実施日の一月前に案内が届くこともあり、年度当初ですべてを計画できるわけではないため、計画に対しての実施率を明示することは難しい。分かる範囲で計画を出し、必要に応じて追加している。</li> <li>・教職員としてのスキル向上のために、教職員相手に模擬授業は実施していますでしょうか。他の教職員の授業の進め方も参考になるのではないかと思います。</li> <li>・人権虐待、ハラスメント等、一般社会で必要な研修は学校全体で徹底して研修を深められるが、教師が専門とする教科、先端技術や専門科目の探求は自分で深める、自ら学ぶが基本と思う。職場の責任は申し出により研修機会を与える事に尽きるのでは。</li> <li>・時代に合った専門性の高い内容が今後さらに求められると思います。常に考え方向性を定める必要があると思います。また、職員のスキルアップも必須であり、定期的な研修カリキュラムを年間スケジュールに組み込み実行が必要だと思います。</li> <li>・研修等に関しては、誰にどの内容の研修を受講してもらうべきか、研修計画等の作成が重要であると考えている。外部研修、内部研修に関する取り組みを引き続き積極的に行っていただくことに期待したい。外部の研修の受講にてインプットした内容を学内においてアウトプットし共有を図る仕組みも構築されており大変評価できる。 ⇒ Teams上に研修・セミナー関連のチャンネルをつくり、各種セミナー等の案内や、受講後の報告（アウトプット）を行っている。 また、職業実践専門課程の認定学科においては、研修計画と実績をホームページ等で公表している。 専門分野の研修に関しては、研修費を学科ごとに割り振り、必要に応じて受講してもらっている。</li> </ul>	3.6

## (4) 学修成果

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3.6
2	資格取得率の向上が図られているか	3.5
3	就職先企業を訪問するなどして卒業生の実態を把握しているか	3.2
現状と課題	卒業生の活躍や評価の聞き取りが不足している。	
改善策	キャリアセンターと教職員で協力して就職先訪問を実施していく。	
関係者意見		学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の卒業生の実態把握はどのように行われているのかお伺いしたい。 ⇒医療系やこども学科など実習がある学科については、実習先訪問の際に卒業生の動向を確認できるが、特に県外への就職に関しては動向把握が難しい状況にある。 今後キャリアセンターと連携を図り、過去数年分の卒業生の動向について、就職先企業に問い合わせを行うなどの方法を検討している。</li> <li>・年々、学校との距離が遠くなっていく学生、同様に年々職場への帰属意識が希薄になりつつある職業人。今こそ送り出す側の学校、受け入れる側の企業が連携し、国家の産業人口を育てる原点教育に取り組むべきではと思う。</li> <li>・卒業生との繋がり、また就職先の人事部との定期的なコミュニケーション、意見交換はとても重要だと思います。</li> <li>・卒業生との交流を積極的に持つことで、企業との関わり、連携に繋がると考える。また現場のリアルな現状等の把握にも繋がり、学生への講義プログラムの内容に還元できる部分もあるのではないかと。 ⇒学科によっては卒業生による講義を実施している（特にこども学科）</li> <li>・学修成果の評価については厳しく捉えるべき。これまで新人に対し、就職前の学校で何を学んできたのか、と責めがちだったが、これからは受入れた以上、社員の新人研修等に視点を置いて、企業と学校が連携を図る必要がある。企業で育てられる部分もあるのではないかと。人材育成を学校にだけ任せる時代ではなくなっている。 ⇒自動車整備科に関しては、県内にディーラーが14社と比較的少ないので連携を図りやすい。 企業は若年者の離職対策を取り始めているので、学校側も協力し卒業生にフォローをし始めている。 これまでの卒業生からフォームにてアンケートを取り、社会人としての経験から養成校に求めるもの等ヒアリングを行っている。また、自動車整備科は学科の特性上、2週間ごとに科目が変わっていくので、ディーラーから非常勤講師を招けないか、検討中。</li> </ul>		3.4

## (5) 学生支援

	評価項目	評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.7
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.5
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.6
4	課外活動に対する支援体制はあるか	3.5
5	経済的支援制度利用についての情報提供を行っているか	3.6
6	必要に応じて保護者との連携が図られているか	3.5
7	卒業生への支援体制はあるか	3.3
8	高等学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.6
現状と課題	概ね良好であるが、在校生および卒業生の就職支援については改善する余地がある。	
改善策	卒業生については学校へのアプローチをさらに容易にするためのしくみを引き続き検討する。	

関係者意見	学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生の学校へのアプローチを容易にするため、今行っている取り組みをお伺いしたい。 ⇒卒業生から再就職等について問い合わせがあった際に、求人情報を紹介している。</li> <li>就職面接への対策について、学校としてどの程度支援しているのかお伺いしたい。 ⇒就職面接への対応については、学科とキャリアセンターによる支援を行っている。特に専門的な部分は学科によるサポートが中心。面接練習は原則本人が希望したときだが、必要に応じて教員から声を掛け練習させることもある。</li> <li>人事担当者として面接に入る際、面接で損をしていると感じる受験生がいる。 正解を答えようとし、自分のことを分かっていない。</li> <li>近年では履歴書や職務経歴書等提出物が多いと受験してくれない傾向があるため、履歴書なしで面接を実施することも増えてきた。ただし、面接時に質問してはいけない項目も多く、就職後のミスマッチに繋がるため、性格診断を取り入れてミスマッチを防ぐようにしている。</li> <li>在学中の学生支援が中心になる事は当然であるが、卒業生の活躍は学校評価の大きな役割を担う面もあり、また在学生の大きな支えにもなるはず。活躍している卒業生を最大限生かし、関係構築の出来る企業と連携し学生支援にこれまで以上に生かすべきではと思う。</li> <li>縁のあった生徒や、その保護者との繋がりコミュニケーションは強化した方が今後の新規生徒活用に繋がると思います。 ⇒就職が決まった場合、内定者メッセージを学内にも掲示している。また、卒業生をパンフレットに掲載したり、卒業生による講話を実施したりしており、卒業生が非常勤講師を務めている学科もある。</li> </ul>	3.6

(6) 教育環境

	評価項目	評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.2
2	学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	3.4
3	防災訓練を定期的実施しているか	3.6
現状と課題	施設・設備は良いが、機材・教材について追加整備を必要とする学科もある。また、インターンシップ体制を拡充する必要がある。	
改善策	就職現場に合わせて機材・教材を順次導入していく。 また、インターンシップの受け入れ企業を開拓し、体制を再整備していく。	
関係者意見	学校関係者評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校を離れての教育活動は、アクシデントが高く担当指導者にも負担が多い。しかしインターンシップ等には大きく成長する機会も秘められており、学科にもよるが更なる体制充実を図る必要があるのでは。</li> <li>出来るだけ多くの生徒が有意義なインターン経験を積む環境を整え、就職後のミスマッチを防ぐことが重要になってくると思います。</li> <li>インターンシップを経てから就職を行うことで、入職後のミスマッチを軽減することにつながると思う。引き続き積極的に取り組んでいただきたい。 ⇒インターンシップに現場実習を加えると6学科が全員の实習等を実施できている。 ITとグラフィック科は希望者のみの実施。自動車整備科はほぼ全員が内定先へのインターンを実施できている。グラフィック科は県内にアニメ関連の企業が2社しかなく、デザイン系の企業へも全員をインターンシップで受け入れてもらうのは難しい。こども学科や医療系は幼少時や学生時代に幼稚園や保育園、病院等を体験しているため、ある程度現場の様子を想像できるが、グラフィック科はアニメにしても印刷物にしても完成形を見ることはあっても現場を見ることはほぼない。そのため、今年は1年生全員、工場をもつ印刷会社の見学を実施した。</li> </ul>	3.6	

(7) 学生の受け入れ募集

	評価項目	評価
1	学生募集活動は適正に行われているか	3.5
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.5
3	授業料等、徴収する金額はすべて明示しているか	3.9
現状と課題	特になし	
改善策	なし	

関係者意見	学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の組織が明確化されており、高校への周知度も高いと思われる。更に入試方法も総合型選抜方式に変わることで、年々アドミッションポリシーが浸透した学生が集まることを期待したい。</li> <li>・引き続き時代に合わせた募集活動を行うことが大切だと思います。 ⇒令和5年度はコロナ禍があげたことなどから、県外流出が多かった。 今後は企画広報室と協力しながら、パンフレットだけでなくSNS（Web）での発信にも重きを置いていく。</li> </ul>	3.8

(8) 財務

	評価項目	評価
1	学校の収支のバランスは取れているか	3.2
2	予算編成は教育目標・業務計画と整合性があるか	3.5
3	財務について会計監査を適切に実施しているか	3.7
4	財務の情報公開はされているか	3.7
現状と課題	特になし	
改善策	なし	
関係者意見		学校関係者評価
特になし		3.8

(9) 法令等の遵守

	評価項目	評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.7
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.6
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.5
4	自己評価結果を公開しているか	3.7
現状と課題	概ね良好である。	
改善策	なし	
関係者意見		学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令順守の取組は、如何に専門的内容を指導徹底して、研修の回数を増やしたからと言って効果があがるものではない。「いつか自分の職場でも必ず発生する」という視点、具体的対応の研修等、臨床的研修での取り組みでなければならず、各法令の理解とは一致しない事、理解していても事故は発生する事の戒めを追求すべきであると思う。 ⇒昨年9月、学園全体でパワハラ関連のオンライン研修を行った。 本年度も校長から複数回パワハラ、アカハラに関する注意喚起を行っている。 7月に実施された学園全体の管理職会議でも、もし問題が発生した場合の対応や問題を発生させないための対応について協議を行った。今後は学園全体共通のルールに則り対応していく。</li> </ul>		3.8

## (10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.3
3	地域に対する公開講座やイベント支援等を積極的に実施しているか	3.4
現状と課題	コロナウイルス5類移行後、ボランティア活動や地域のイベント支援等、コロナ禍以前まで回復はしていないが、学外での活動は増えており、概ね良好である。	
改善策	特になし	
関係者意見		学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のボランティア活動について、どの程度把握しているのでしょうか。学生への聞き取りなどが行われているのでしょうか。学校を介さないボランティア活動についても、平等に評価できるようにしてあげたい。 ⇒個人でのボランティア活動については把握しておらず、ボランティアを強制することもできないため、評価は難しい。ボランティア募集の案内が届いた場合、学校行事に影響なければ学校全体に案内を行っている。公文で依頼のあったボランティア活動については、参加時は公欠扱いとしている。</li> <li>・公益的取組への関心を育てる活動を指導啓発し、やらされるボランティア活動から将来の自分へ繋げるボランティア活動へ視野を広げる事が必要と思われる。</li> <li>・ボランティアなど社会性を身に付けるきっかけづくりをする事も学園の重要な教育の一環だと思います。</li> </ul>		3.4

## (11) 国際交流

	評価項目	評価
1	留学生の受け入れを行っているか	3.8
2	留学生の受け入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3.6
3	留学生の学修・生活指導等が適切に行われているか	3.5
現状と課題	特になし	
改善策	なし	
関係者意見		学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、需要がますます増えていく外国人材の受け入れ態勢はますます強化すべきと思います。</li> <li>・特定技能での外国人受入れはベトナムからインドネシアにシフトしている。日本法人が設立できることから、今後4～5年でインド人が増えてくるだろう。 帰国してからの需要があるため、自動車関連での外国人労働者の需要は高い。 ⇒自動車整備科ではこれまで留学生が9人卒業し、8人が日本の資格を取得している。 ネパール出身者は自国でトラックの需要が高いことから、就職もトラック系である。 日々の学習対策として、毎朝30分程度、教科書に出てくる新しい言葉について補習を行っている。 就労ビザで働けるよう、現在トヨタ系企業と企業奨学金制度の策定に向けて協議中。</li> </ul>		3.5

## 5 学校関係者評価委員のご意見に基づく改善方法

- (1) 「1.教育理念・目標」に関し、令和5年度はアドミッションポリシーを中心に、各科3つのポリシーの見直しを図った。令和6年度は在校生、オープンキャンパスへの参加高校生を中心に、積極的にポリシーの周知を図るとともに、再定義したポリシーを再評価して、今後の行動指針策定に向けての土台とする。
- (2) 「4.学修成果」に関し、卒業生の実態把握についてのご意見をいただいた。現状は在校生の実習の有無や県内・県外で隔たりがあるため、今後一律に実態把握ができる仕組みを検討する。
- (3) 「5.学生支援」に関し、コロナ禍を経て、人とのコミュニケーションが苦手な学生が増加傾向にあるので、まずはクラスでのコミュニケーション力向上に向けての取り組みや、自己分析の指導等を強化し、そのうえで、面接指導のあり方等、各学科とキャリアセンターの連携を一層強化していく。また、卒業生への支援体制についても、更にアプローチを容易にするための仕組みづくりについて検討していく。
- (4) 「10.社会貢献・地域貢献」に関し、「やらされるボランティア活動から将来の自分へつなげるボランティア活動へ視野を広げる」必要性についてご意見をいただいた。学科の特性により、ボランティア活動に積極的な科とそうでない科があるが、どの科も学習している内容を活かした地域貢献（小中学生対象の職業体験等）を通じて、自己成長できるイベント等が出来ないか、模索していく。